



なかつがわ

おちあい

中津川宿～落合宿

約 3.9 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

Topics

落合の棚田の風景

落合宿を取り囲むようにして広がる棚田。ウォーキングの途中でふと周囲を見渡すと現れるこの風景。中山道が主要道路だった当時から、旅人を癒した。高低差がある棚田は、裾野から見上げた様子と上方から見下ろした様子、ふたつの景観が楽しめる。

中津川宿

奈良、平安時代の昔から東山道の要衝にあり、江戸時代に整備された中山道の中でも特に賑わった宿場のひとつ。全長1,100m、旅籠屋は大小29軒あったとか。幕末に尊王攘夷を唱えて戦った天狗党水戸浪士の墓や、桂小五郎(木戸孝充)の隠れ家跡が今も残り、薩長の密談・中津川会議が行われるなど、江戸から明治へと変わる激動の時代のカギをにぎった宿場でもありました。

子野地藏堂石仏群

ここでは、地藏・観音像・庚申塚など、数多くの石仏があります。その由来は、昔この辺りに地藏堂があったからとも、無縁石仏を集めたためともいわれています。中には19世紀に中津川に逗留していた徳本上人の念仏塔もあります。

子野地藏堂の枝垂桜

中山道を通る旅人の心を和ませたといわれる枝垂桜の名木が境内にあります。花の咲く季節は圧巻です。

間家大正の蔵

間家の丸八が、角十として島崎藤村の名作『夜明け前』に登場。大正時代、間家は東濃随一の豪商といわれていました。

落合の助け合い大釜

宿場町としての、おもてなしの心を今に残す大釜。かつては、「寒天」の原料の天草を煮るときに使用されたものとされています。今でも落合宿まつりなどでは「千人キノコ汁」が振る舞われます。

落合宿

木曾路の険しい難所を控える旅人たちを迎えた落合宿は、映画『十三人の刺客』で決戦地としても描かれており、前田家寄贈と伝わる大門が見事な落合宿本陣や、上町の常夜灯など、今も山あいの街道情緒を残す宿場町です。この宿場町を抜けると馬籠宿までかつて難所と呼ばれた十曲峠が続き、「落合の石畳」は、ウォーカーの人気スポットです！

